

21/9/17 名古屋市会本会議（名古屋城部分）

名古屋市民オンブズマンによる、半自動文字起こしアプリによる文字起こし

浅井正仁（自民・中川区）：次に名古屋城木造復元について、私は先回の本会議で文化庁の所見を踏まえ解体申請は取り下げのべきと強く意見をしましたが、松雄局長は取り下げませんと、この本会議場で2回も声高らかに宣誓されました。

多分ここに居る議場の皆さんも記憶に（ありがとうございます）記憶に新しいと思いますけれども。

そこで解体申請を取り下げずに今後どうこの木造復元を進める方法があるのかと、私は7月の28日に文化庁に行って聞いて来ようと思い文化庁の方へ行ってきました。

しかし、そこで私は文化庁の山下文化財第二課長から「昨日、名古屋市の松雄局長が直接文化庁に解体申請の取り下げに来ました」と言われました。私は「取り下げですか」とお聞きしましたが、山下課長ははっきりと「文化庁は取り下げと認識しています」と言われました。そこで松雄局長にお聞きしますが、文化庁の山下課長が言われた、あなたが自ら解体申請を取り下げたというのは事実ですか。お答え願いたいと思います。

次に、木造天守閣の復元スケジュールについてです。

松雄局長は先回の本会議で解体の申請時に求められていた文化財調査が文化庁から一定の評価を受けたこと、更に文化庁から所見が出されたことで木造復元が大きく前進して順調だと答弁しています。

市長選の時などには木造復元が2028年完成かと、文化庁も概ね了承しているとのコメントまでつけて新聞報道はされました。

そこで松雄局長にお聞きしますが、事務方が得意とする積み上げで完成時期を想定した場合、最大でどれ位かかるのかお答えいただきたいと思います。

松雄観光文化交流局長：名古屋城天守閣木造復元につきまして2点のお尋ねをいただきました。

最初に文化庁手続きについてでございます。

現天守閣解体の申請書の取り扱いにつきましては、取り下げということになりますと、市が事業自体を断念したと受け取られかねないとの懸念がございましたので、解体の申請については、現天守閣解体のみならず、木造天守復元についても一体としてその内容に加えるよう見直しを図るのが適当であるとの文化庁の所見を踏まえて、市長にご決裁をいただいた上で、木造天守復元の内容を加えて見直しを行い、改めて出し直すという市の方針を固めてまいりました。

そして7月27日、私と名古屋城総合事務所長で直接文化庁赴き、解体と復元を一体とした申請書を出し直すという市の方針を説明の上、解体の申請書を一旦返却していただきました。

文化庁におかれましても、本市の立場についてはご理解いただいているものと認識をいたしております。従いまして私が市の方針に反して文化庁に解体申請を取り下げたいとは申しておりません。

次に竣工期限についてでございますが、文化庁からいただいた所見につきましては、木造天守の復元と今後の手順、進め方について初めて文書で言及していただいたものであると認識しており、その道が大きく開けるものと捉えております。

木造天守復元のための手続きといたしましては、現状変更許可申請に先立ち、復元検討委員会でご議論をいただくことが不可欠であり、その開始には石垣の保存方針、基礎構造、今後公募により選定する昇降技術を含めたバリアフリーの内容を反映した現天守閣と木造復元を一体とする全体計画を取りまとめる必要がございます。現在その準備作業に鋭意進めているところでございます。

お尋ねの完成時期についてでございますが、以前に実現可能な手順と工程を積み上げた結果を私も事務方の案として、2028年と提示させていただいたものでございますが、この度文化庁から、有識者と十分な議論と合意形成を図りつつ進めることとの所見をいただいておりますことから、竣工期限ありきではなく、まず全体計画作成を丁寧な上にも丁寧に進めていくことが最も重要であり、最速の道であると認識いたしております。

従いましてその途上である現段階で木造天守の完成時期をお答えすることは、今は適切ではないと考えておりますので、ご理解賜りたいと存じます。

浅井正仁（自民・中川区）： それぞれご答弁をいただきました。

続きまして名古屋城の質問であります。

解体申請は取り下げていないね、返却ね。

松雄局長、ちょっといい加減にして欲しいよね、言葉遊びだよねこんなのね、前回の議会の時間返してほしいよ。松雄局長、返却って何ですか、行政手続きであるんですか。

じゃあね、なぜ文化庁が取り下げたと明確に言うのかね。私が今から明らかにしますよね。6月の23日文化庁に提出したこれが、ここに6月23日に文化庁へね。

これは佐治所長、新井主幹、荒川主幹が行きました。

これは前回の私の本会議の5日前の話です。何しに行ったかっていうとね、このピンクのところ、解体申請の取り下げをする場合は市の意思表示をすること、手続きは口頭でもメールでも事務連絡でもよって書いてあるんですよ、松雄局長ね。

これ取り下げになってるじゃないですか。これが何で返却じゃないんじゃないの。

なんで返却じゃないのこれ。

それから、そのときに持ってったこの工程表。これ6月23日に同じ文化庁に行ったときに持ってきました。多分私が察するところ、こういう手順のイメージでいいですかというのをね、持ってったんだと思います。ここの黄色のね、黄色枠に申請取り下げって書いてあるんですよ。

新幹線で行って税金の無駄ですよ。

何で文化庁へ取り下げと言っという、ここに来ると返却にあなたは変わるんですか、可笑しくない。

議会、馬鹿にしてんの、ね。

でね、私がね7月の28日にね、文化庁に行ってきました。

で、その時に名古屋市は天守閣解体申請を取り下げないと言ってるから、どうやったらできるんだろうと言ったら、なんと私の前日ごめんなさい。私は7月の28日に行ったんだ。そしたらなんと、7月の27日に名古屋市さん松雄局長は文化庁に7月の27日、文化庁で取り下げてきた。これが7月の27日に行ったときの議事録ですね。

ここまずね、文化庁の相手先でここには誰が行ったかも書いてないんですよ、こんな復命書あります。その他の内容としてね、西の丸の整備の進め方、市から説明、文化庁から言われたこと全部書いてあるんですよ。

で、この解体申請のことはたったの1行。その他現天守解体の現状変更許可申請に関する書類を受領したとしか書いてないんですよ。何でここには文化庁とのやりとりが書いてないんですか。

何でしょうか、不思議でしょうがありませんよ。

もし松雄局長が言うように文化庁に説明しながら、その内容ここやっぱり書きますよね、結局あなたはね、その時、何も言えずに帰ってきたんじゃないですか。

なぜならね、私、その時山下二課長にね「名古屋市は返却できましたか」って聞いたんですよ。

そしたらね、山下二課長、渋谷調査官、それからもう1人の調査官ね鼻で笑いましたよ。

「返却じゃないんですか」って言ったら「取り下げです」と。

「申請には取り下げと、継続しかありません」とはっきり言われましたよ。

そもそも返却とは、貸していたものを返してもらう。つまり申請すらしていないということなんですよ。

松雄局長には文化庁がレンタルショップにでも見えるんでしょうか。

返却という言葉遊びのためにね、前回の本会議から1ヶ月、あなたたちはね、木造が進むことを考えずにね。この取り下げと返却という言葉はずっと見つけるためにこの1ヶ月いたんですよ。

いい加減にしていきたい。

私はね、多くの職員さんに聞きましたが、この提出した申請書を返してもらうことは、これは取り下げかと聞くと、この名古屋市の職員さんみんな取り下げって言うんですよ。

だけどね、名古屋城の職員だけは返却って言うんですよ。笑いながら返却って言うんですよ。言論統制でもしてんですか観文は。

さて市長このように文化庁に取り下げ、議会には返却とダブルスタンダードで説明をしたり、言論統制をととも思える弾圧をしたり、事実を隠した報告書を作ってまで市民や議会に嘘を言ってごまかすやり方で、木造復元が本当に進むと思ってんですか、文化庁への説明も取り下げ、文化庁の見解も取り下げです。

それでも松雄局長は議会には取り下げではなく返却という答弁。これがあなたの言う議会への丁寧な説明なんですか。

市長あなたは松雄局長が文化庁には取り下げと説明していたこと、そして文化庁から取り下げ手続きの助言がされていたことを知っていましたか市長。

まさに文化庁には取り下げ、議会には返却と嘘をいって誤魔化せと指示をしたのは、市長あなたですか。

ところで今週初めに、経済界の重鎮から松雄局長から木造復元を妨害して、妨害しているのは自民党だという話が来ました。

松雄局長、あなたは自民党の誰が木造復元を妨害しているというんですか、私ですか、藤田団長ですか、それとも横井利明ですか。

あなたが木造復元が進んだというのが現状を見れば、石垣の保全方針もまだ、基礎構造もまだ、実施設計もまだ、国際コンペもまだ。最終木造復元が進まないのは、あなたは石垣部会のせいだと言って首にしますと私に向かって言いました。

で今度ねそれが上手くいかないと、文化庁にね、所見を出されて手詰まりになった。

ただ今度は自民党のせいですか、あなたたちの性じゃないんですか。

局長、可笑しくないですか。

あなたは先回の本会議で文化庁から解体と復元の申請を一体で提出することが望ましいとの見解が初めて示されたと答弁しました。だけどね、今回私ちょっと気になって、ずっと2年前からやっているこの名古屋城の議事録を読みましたよ。

そしたら2年前令和元年9月の本会議で、局長は一体申請が前提ではないかと私が質問した時、文化庁から一体として申請することが望ましいと伝えられていると、その時も言うてるんですよ。

2年前に言うてるんですよ。

それをね、解体申請を取り下げもせず、追加追加だとずっと居座ってきた。私はずっとそれをね、駄目だ駄目だって言うてきた。どうなんでしょ。

基礎構造だってそうでしょ、私が本会議でやって進んだんでしょ。

あなたたちはね。それを自民党の性するなんて、私達自民党は文化庁へ行って話を聞いて整理して、この本会議で一つ一つ課題を述べてやってんですよ。

それを自民党の性とするのはおかしすぎる。市民の皆さんもね、議会も本当にねこれ市長、木造復元楽しみにしてますよ。いつ完成するか誰もが聞きたいですよ本当のこと言って。わかりますよ気持ちも、石垣の調査だとか、だけどね市長、だいたいの目標位言ってくださいよ、あなたの市の公開討論会では私の任期中って言ったじゃないですかね、それを今言ったら、聞いたら失礼ってどういうこと。

私たち市民に聞かれるんですよ。「いつできるの」「いやまだちょっとわかんない」って言うのと、「だって100億で木買っちゃったんでしょ」って言われるんですよ。市長ね聞かれたときにね、その市民の人にね「市長、名古屋城いつできるの」って聞かれたら「そんなこと聞くのは失礼だ」って言うんですか、ね。

そういうことですよ。みんな期待してんですからね。
だから市長、申し訳ないけど、いつ位までにね、目標でいいですよ、ちょっとお話して
いただきたいと思います。

河村市長： さっきのあれは言わんとしてもいいですか。
取り下げなのかどうなのか。あれも折角ですから。
私が松雄局長に取り下げということになると断念したと思われるから、それはよくないとい
うことで、何ですか、出し直すようにと僕が指示したんです。
私はなぜ指示したかという、そんな勝手にはできませんので、僕は僕で文化庁から聞いて
おりまして、一体のものとして出されればいいよと。
学者の皆さんとぜひ一致してやってくださいと。ところで、言い方については僕が言った
んだと思うけども、取り下げるといともうなんかや止めるみたいに思うから言ったらそう
だねって、だったら変更でもええですよといいました。
変更でもいいから名前はそちらで考えていただいて、名前でない。出し方は市の方から出し
てくださいと、そういうそう言われましたので、私が松雄局長に指示したんですということ
です。
それから、いつできるかということについては、今有識者、専門家の方と鋭意努力しておりま
して、経済界からも一定のご理解をいただきましたという段階でございますので、とにかく
僕は自分の寿命も尽きますんで、もうとにかく早く作ってちょということでございますけど、
今一番大事なとこだもんで、文化庁と専門家の皆さんの指導を得ながら丁寧にやっております
んで、ちょっと僕でも言いたいんだけど、勝手なこと言えんていかんだけども、これ
文化庁のところにありますんで、そういう段階でございます。

浅井正仁（自民・中川区）： またまたの変更だとかね、新しい言葉が出てきたんだけど、
私、行政手続きの話してんですよ、行政手続きでね。行政手続きで名古屋市で返却ってある
んですか。あるんですか。

これから取り下げるって言わずに、名古屋市は返却お願いしますっていうんですか、図書館
ですか。

可笑しいって。ちゃんと市民に、局長も市長もね、市民に丁寧な説明って言うけど、これ丁
寧な説明じゃないじゃないですか、誤魔化しですよ。

（もう一回言いましょうか）もういいです。

市長に一つだけね、だったらね返却っていうならね、返しに行かなあかん。

ほんなら市長、私と一緒に文化庁行って返却に行きましょうよ。

ね、私アポ取りますから。そこで言われる言葉はね、一つですよ、市長。

文化庁としては取り下げました。取り下げたものを返すことはできませんと言われてますよ。

でも市長がそこまで言うならね、一緒に行きましょうよ。

でもういいです、もう切りがないから。これはいいや。